

公益社団法人横浜市獣医師会 常務理事

中畑 嗣也 先生

TSUGUYA NAKAHATA

クマが街にやってくる。
今、獣医師として考えること

■ 11年ぶりに横浜で開催される獣医師大会

私は横浜市で動物病院を開業し、日々犬や猫の診療に携わる一方、公益社団法人横浜市獣医師会の常務理事として、地域の獣医療や動物愛護、公衆衛生などの活動にも関わっています。そんな私にとって、今年は少し特別な年です。関東・東京地区の獣医師が一堂に会し、日頃の研究や臨床の成果を発表する「関東・東京合同地区獣医師大会・三学会」が11年ぶりに横浜で開催されます。9月6日の開催に向け、横浜市獣医師会が一丸となり準備中で、私自身も運営に携わっています。

「獣医師の学会」と聞くと、一般の方には少し縁遠く感じられるかもしれません。でも、私たち獣医師が向き合っているのは、診察室の中の犬や猫だけではありません。人と動物がどのように関わり、共に暮らしていくのかを考え、社会に伝えていくことも、獣医師や獣医師会の大切な役割だと思っています。

■ 今だからこそ、もう一度聞きたい宮崎先生の話

そこで今回、一般の皆さんにも参加していただける市民公開講座を開催します。講師は、自然界の報道写真家として長年にわたり野生動物を見つめ続けてきた宮崎学先生。テーマは「野生動物から見た人間社会～人とクマの共生を考える～」です。

実は宮崎先生には、以前にも横浜市獣医師会の市民フォーラムで講演をお願いしたことがあります。当時は今ほどクマによる被害が社会問題になっておらず、「クマは山深いところにいる動物で、自分たちの暮らしとはあまり関係がない」。そんな感覚を持っていた方も多かったのではないのでしょうか。私自身も、現在のような状況になるとは想像していませんでした。

しかし宮崎先生は、それより前の2012年に『イマドキの野生動物—人間なんて怖くない』を出版されています。野生動物の行動の変化だけを見るのではなく、その背景にある人間社会や自然環境の変化にも目を向け、すでに十数年前から私たちに問いを投げかけていました。

■ クマが街にやってくる。なぜ今？

そして今、クマが住宅地や市街地に姿を現し、人が被害に遭うニュースも珍しくなくなりました。かつては遠い山の中の話だったことが、私たちの暮らしのすぐ近くで起きています。なぜ、こうなったのでしょうか。

「クマが増えたから」「山に餌がないから」。それだけなのでしょうか。過疎化や里山の変化、人と自然との距離、そして私たち自身の暮らし方も関係しているのかもしれませんが。人間の側からクマを見るだけではなく、野生動物の側から私たちの社会を眺めてみる。そうすると、少し違った景色が見えてくるように思います。

こうした変化は、決して一部の地域だけで起きていることではありません。クマだけでなく、シカやイノシシ、サルなど、野生動物と人との距離が変わりつつある地域は全国にあります。都市に暮らす方にとっても、決して無関係な話ではないと思います。

■ 人と野生動物とのこれからを、一緒に考える

普段は犬や猫を診療している私たち小動物臨床獣医師も、動物を専門とする立場だからこそ、人と野生動物との関係について考え、社会に伝えられることがあるはずです。

十数年前から野生動物と人間社会の変化を見つめてきた宮崎先生の言葉を、今だからこそ、もう一度聞いてみたいと思っています。

9月6日に横浜へ足を運んでいただける方は、ぜひ市民公開講座へ。そして、このコラムを全国で読んでくださっている皆さんにも、これをきっかけに、ご自身の地域の自然や野生動物との関わりに少し目を向けていただけたら嬉しく思います。

クマをただ「怖い動物」として見るのではなく、なぜ今、私たちの生活圏に姿を現すようになったのか。そして、人と野生動物がこれからどのような距離で暮らしていけばよいのか。

答えは一つではないと思います。

だからこそ、皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。

【関東・東京合同地区獣医師大会・三学会 市民公開講座】

「野生動物から見た人間社会～人とクマの共生を考える～」

講師：宮崎 学 先生（自然界の報道写真家）

日時：2026年9月6日（日）10:00～12:00

会場：パシフィコ横浜ノース 4階

参加費：無料

事前申込：不要

どなたでもご参加いただけます。ぜひお気軽にお越しください。

お問い合わせ：公益社団法人横浜市獣医師会事務局

TEL：045-751-5032

